

与えられている資料を読むと、2つのパートからなっていることが分かる。前半が後醍醐天皇の政治改革の様子。後半がそれに対する北畠親房の批判である。

まずは前半の後醍醐天皇の政治改革について考えよう。

設問

A 後醍醐天皇がこの政治改革でめざしたものは何か。3行以内で述べよ。

ここで注意しなければならないのは、問われているのはいわゆる建武新政で天皇がめざしたものである。したがって「鎌倉幕府の倒幕」が答えではない。

後醍醐天皇は鎌倉幕府を倒して

を否定した。

Aブロック

一身に権力を集中し、

「天下一統」を実現した。めざしたのは

であった。

Bブロック

平安時代以来、貴族社会では、「先例」に従うことが正しい政治のありかただとする考えが支配的であった。

当時の

の慣習は、

重視であった。

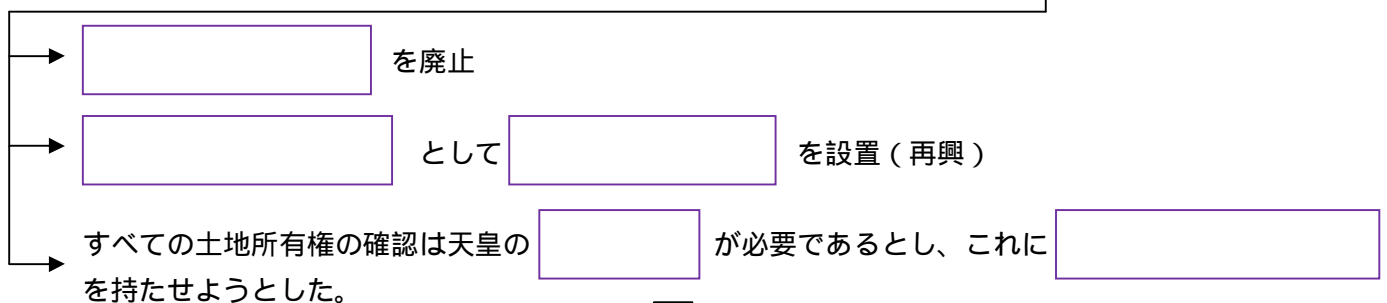
Cブロック

天皇は、「今の先例も昔は新儀だった。私の行う新儀は未来には先例となるだろう」（『梅松論』）という言葉に示されるような意気込みで、つぎつぎに目新しい政治改革を打ち出した。

天皇は 重視の慣習をも改め、目新しい政治改革を打ち出した



ここまでで、大枠は作成できる。「～をめざした。」というまとめ方にするならば、A C Bの順で書けばよい。90字の字数が与えられているので、Cブロックの「～慣習をも改め、目新しい政治改革を打ち出した。」の部分をも具体的に述べるとよい。



の否定に加えて、 重視であった の慣習をも改め、
 を廃止して として を設置し、
 に を持たせるなど、 をめざした。